学期 / Compostor	2024年度 / Academic Year 前期	- IPPロ・松味 / Doy - Doried	月 / Mon 5
学期 / Semester	/First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月/Mon 5
開講期間 / Course duration	2024/04/08 ~ 2024/09/29		
必修選択 / Required / Elective	必修,選択,自由/required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学)/Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード/Time schedule code	20240581003001	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード/Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名/Course title	初年次セミナー(多文化) / Fi	rst-Year Seminar	
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	姉川 雄大		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	姉川 雄大		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	姉川 雄大		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目、教養ゼミナ	ール科目,大学院科目[構造],自由	選択科目/Elective Courses
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態/Course style	演習 / Seminar
教室/Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) /Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	anegawa[at]nagasaki-u.ac.jp [at]は@		
担当教員研究室/Office	総合教育研究棟12階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2928		
担当教員オフィスアワー/Office hours	メールでアポイントをとってくだ	さい	
授業の概要及び位置づけ/Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。		
授業到達目標/Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 主体性 / Autonomy 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
	A.授業内容の理解度を確認した	り自分で考えさせたりする活動 <br< td=""><td>&gt;/ Activities to check the</td></br<>	>/ Activities to check the
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B.多角的に考えるために他者と関わる活動 br>/ Activities involving others to think from various perspectives C.技能修得のために実践する活動 br>/ Activities to practice for acquiring skills D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 br>/ Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 br>/ Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F.教員からの講義のみで構成される br>/ It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議	論・作業への参加度合い(30%)、学	期末レポート(25%)
各回の授業内容・授業方法 ( 学習指導方法 ) /Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	(2h) 【復習】 講義内容について、テキ	講義で説明されるテキストの該当箇 -ストや参考書を読んで復習し、理解 からない点は友人や教員に質問し、	gできない点は図書やインター
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履	修、資料収集、調査、プレゼンテー	ション、レポート・論文
教科書・教材・参考書/Materials	特定の教科書を用いないが、必ず する。	参照する資料はいくつかあるので、:	授業内およびLACS経由で配布
受講要件(履修条件)/Prerequisites			

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会 的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートに ついては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下 さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL)095-819-2006(FAX)095-819-2948 (E-MAIL)support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	10回目以降について「グループワーク」の形式をとるかどうかは変更の可能性がある。  「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開
学生へのメッセージ/Message for students	拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教	
育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使	
用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents
	はじめに:オリエンテーション(対面)
第1回	授業: 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する
	自習: 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる 問いを立てる(対面)
	同いを立てる(対画)  授業: 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る
第2回	自習: 卒業までの学びの設計図を描く 時間外:個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、そ
	れをメモする
	資料収集の基礎(対面)
第3回	授業:附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する
	自習:2自習- の続き 知のモラルとマナー (対面)
第4回	アワー)
	自習: 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信す   
	る  問題発見からリサーチクエスチョンへ授業(対面):
第5回	個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る
	自習: テーマの絞り込みと 「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
	本・論文を探す(対面)
第6回	授業: 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る  自習: 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(対面)
₩-7-E3	授業: リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本
第7回	的考えを知る
	自習: 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り(対面)  授業: 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る
<del>                                     </del>	自習: 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
	調査から研究へ(対面)
第9回	授業: 問いと先行研究(文献)との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程
	を知る
	自習: 8自習- の続き、 リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる   グループ調査の設計(対面)
第10回	授業(対面):
	9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする
	自習: 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
	文献調査とフィールド調査(対面)
第11回	授業: 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認(「リサーチ入門     」との連接)
	」この理接)  自習: 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う

	プレゼンテーション入門(1) (対面)
第12回	授業: 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る
	自習: グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
	プレゼンテーション入門(2) (対面)
第13回	授業:文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする
	自習:調査データのブラッシュアップをする
	研究発表会(対面)
₩44 <b>©</b>	授業: 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッショ
第14回	ンに参加する
	自習:グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
	レポート・論文執筆の基礎(2)(対面)
***** C	授業: プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認す
第15回	<u> వ</u>
	自習: レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
77.40 D	まとめ(対面)
第16回	レポート作成

学期 / Semester	2024年度/Academic Year 前期 /First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月/Mon 5
開講期間/Course duration	2024/04/08 ~ 2024/09/29		
必修選択/Required / Elective	必修,選択,自由/required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学)/Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード/Time schedule code	20240581003002	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード/Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名/Course title	初年次セミナー(多文化) / Fi	rst-Year Seminar	
編集担当教員/Instructor in charge of the course syllabus	YNACAY NYE ALAYNA DEANNE IRENE		
授業担当教員名(科目責任者) /Instructor in charge of the course	YNACAY NYE ALAYNA DEANNE II	RENE	
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	YNACAY NYE ALAYNA DEANNE II	RENE	
科目分類 / Course Category			選択科目 / Elective Courses
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) /Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	aynacaynye nagasaki-u.ac.jp(	を <b>を</b> @に変更)	
担当教員研究室/Office	総合教育研究棟10F		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	随時。事前Eメールで事前に日時を		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校 までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを 、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループ ワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につけ る。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果た す。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。		
授業到達目標/Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための 基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	汎用的能力/Generic Competence 倫理観/Ethics 多様性の理解/Understanding Diversity 主体性/Autonomy 協働性/Cooperativeness 考えをやり取りする力/Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心/Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	degree of comprehension of the B.多角的に考えるために他者とvarious perspectives C.技能修得のために実践する活 D.問題解決のために知識を総合 utilize knowledge to solve prol E.上記以外の学生の思考の活性 students' thinking other than	化を促す授業手法 / Teaching r	ink over  Iving others to think from  for acquiring skills  s that comprehensively  methods to stimulate
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議	論・作業への参加度合い(30%)、学	期末レポート(25%)
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course	  詳細は授業計画詳細を参照		
contents of each lesson		# ギスジロナムフェキュレ みかりか	マニロナマン マカノー
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	(2h) 【復習】 講義内容について、テキ	講義で説明されるテキストの該当箇月 テストや参考書を読んで復習し、理解からない点は友人や教員に質問し、1	<b>ぽできない点は図書やインター</b>
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履 ポート・論文	修、資料収集、調査、グループワー	ク、プレゼンテーション、レ
教科書・教材・参考書/Materials	世界思想社編集部編『大学生 学	びのハンドブック[5訂版]』世界思	想社、2021年
受講要件(履修条件)/Prerequisites			

アクセシビリティ/Accessibility (for students	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会 的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートに ついては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下
with disabilities)	さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL)095-819-2006(FAX)095-819-2948
	(E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開
学生へのメッセージ/Message for students	拓する意欲を持つことが何より大切です。
	「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-  result/student/
(Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教	
育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使	
用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
	Min Mik 上 内 (
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents
	はじめに:オリエンテーション(対面)
第1回	授業: 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する
	自習: 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる 問いを立てる(対面)
***	
第2回	自習: 卒業までの学びの設計図を描く 時間外:個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、そ
	れをメモする
	資料収集の基礎(対面)
第3回	授業: 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する
	自習:2自習- の続き 知のモラルとマナー (対面)
第4回	アワー)
	自習: 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信す
	る  問題発見からリサーチクエスチョンへ授業(対面):
第5回	個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る
	自習: テーマの絞り込みと 「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
	本・論文を探す(対面)
第6回	授業: 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る
	自習: 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(対面)  授業: リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本
第7回	的考えを知る
	自習: 実際に文献表を作ってみる
	リーディングと研究ノート作り(対面)
第8回	授業: 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る
	自習: 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解  調査から研究へ(対面)
	週間から前れてくが周り  授業: 問いと先行研究(文献)との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程
第9回 	を知る
	自習: 8自習- の続き、 リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる
	グループ調査の設計(対面)
第10回	授業:   0白羽 に其づいて会員の前で担安を行う ゲループ調本のニーフを決め 班公けまる
	│ 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする │自習: 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
	文献調査とフィールド調査(対面)
第14回	授業: 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認 (「リサーチ入門
第11回	」との連接)
	自習: 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う

	プレゼンテーション入門(1) (対面)
第12回	授業: 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る
	自習: グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
	プレゼンテーション入門(2) (対面)
第13回	授業:文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする
	自習:調査データのブラッシュアップをする
	研究発表会(対面)
₩44 <b>©</b>	授業: 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッショ
第14回	ンに参加する
	自習:グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
	レポート・論文執筆の基礎(2)(対面)
***** C	授業: プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認す
第15回	<u> వ</u>
	自習: レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
77.40 D	まとめ(対面)
第16回	レポート作成

学期 / Semester	2024年度/Academic Year 前期 /First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Course duration	2024/04/08 ~ 2024/09/29		
必修選択/Required / Elective	必修,選択,自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学)/Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード/Time schedule code	20240581003003	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード/Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名/Course title	初年次セミナー(多文化) / Fi	rst-Year Seminar	
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	西田 充		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	西田 充		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	西田 充		
科目分類/Course Category	教養ゼミナール科目、教養ゼミナ	ール科目,大学院科目[構造],自由	選択科目/Elective Courses
対象年次/Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習/Seminar
教室/Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) /Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	michiru.nishida nagasaki-u.ac	.jp(メールをする際は、 を@に置	き換えてください。)
担当教員研究室/Office	総合教育研究棟2階(202)		
担当教員TEL/Tel			
担当教員オフィスアワー/Office hours	メールにてご相談ください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校 までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを 、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループ ワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につけ る。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果た す。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。		
授業到達目標/Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための 基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 主体性 / Autonomy 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B.多角的に考えるために他者と関わる活動 various perspectives C.技能修得のために実践する活動 C.技能修得のために実践する活動 D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 doncinum and the comprehensively utilize knowledge to solve problems E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 students' thinking other than the above F.教員からの講義のみで構成される F.教員からの講義のみで構成される from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議	論・作業への参加度合い(30%)、学	期末レポート(25%)
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法)/Course	詳細は授業計画詳細を参照		
contents of each lesson		# ギマジロナねフェキュレッサック	ビーロナマト アカノート
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	(2h) 【復習】 講義内容について、テキ ネットを用いて調べ、それでもわ	講義で説明されるテキストの該当箇 Fストや参考書を読んで復習し、理角 からない点は友人や教員に質問し、	⊈できない点は図書やインター 解決すること。(2h)
キーワード/Keywords	<del> </del>	修、資料収集、調査、グループワー	
教科書・教材・参考書/Materials	戸田山和久「論文の教室:レポートから卒論まで」		
受講要件(履修条件)/Prerequisites	体調不良等のやむをえぬ理由で欠	席するときは、事前に担当教員に連	絡してください。

アクセシビリティ/Accessibility (for students	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会 的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートに ついては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下 さい。
with disabilities)	アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL)095-819-2006(FAX)095-819-2948
	(E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	( E WATE ) Support tell 1. Tragasant - u. ac. ) p
THE STRONGERO	┃ ┃「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開
当たるのメットランド/Necocco for etudente	拓する意欲を持つことが何より大切です。
学生へのメッセージ/Message for students	「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Υ
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教	
育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使	西田 充/外務省で25年間、外交官として、またそのほとんどの期間を軍縮不拡散専門官として国
用)/Name / Details of practical experience /	際的な軍縮不拡散関連の様々な交渉や協議に関わった。
Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents
	はじめに:オリエンテーション(対面)
第1回	授業: 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する 自習: 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
	問いを立てる(対面)
	授業: 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る
第2回	自習: 卒業までの学びの設計図を描く 時間外:個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
	資料収集の基礎(対面)
第3回	授業:附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する
	自習:2自習- の続き
	知のモラルとマナー(対面)
第4回	授業: オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問(オフィス    アワー)
3.7°C	自習: 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信す
	る  問題発見からリサーチクエスチョンへ授業(対面):
第5回	同題光光が599  アラエステョンへ技業(対画)。   個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る
7700	自習: テーマの絞り込みと 「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
	本・論文を探す(対面)
第6回	授業: 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る
	自習: 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(対面)  授業: リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本
第7回	技業・・サストアップした音輪と調文を使うと文献表のFFリカを子が、 レホート調文教業の基本 的考えを知る
	自習: 実際に文献表を作ってみる
	リーディングと研究ノート作り(対面)
第8回	授業: 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る
	自習: 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
	調査から研究へ(対面)
第9回	授業: 問いと先行研究(文献)との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程
	を知る  自習: 8自習- の続き、 リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる
	日白 : 0日白 : 00点と、 リリーデリエステョンとでの急義を提案者によどのも   グループ調査の設計(対面)
	授業:
第10回	9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする
	自習: 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
	文献調査とフィールド調査(対面)
第11回	授業: 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認 (「リサーチ入門
	」との連接)   白羽・ 文献調本を行い 手公けして詩わ   子供的か調本を行う
	自習: 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う

	プレゼンテーション入門(1) (対面)
第12回	授業: 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る
	自習: グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
	プレゼンテーション入門(2) (対面)
第13回	授業:文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする
	自習:調査データのブラッシュアップをする
	研究発表会(対面)
₩44 <b>©</b>	授業: 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッショ
第14回	ンに参加する
	自習:グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
	レポート・論文執筆の基礎(2)(対面)
***** C	授業: プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認す
第15回	<u> వ</u>
	自習: レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
77.40 D	まとめ(対面)
第16回	レポート作成

学期 / Semester	2024年度 / Academic Year 前期 /First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月/Mon 5
開講期間 / Course duration	2024/04/08 ~ 2024/09/29		
必修選択/Required / Elective	必修,選択,自由/required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学)/Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード/Time schedule code	20240581003004	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
	初年次セミナー(多文化) / Fi	rst-Year Seminar	
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	COMPEL RADOMIR / COMPEL RADOMI	COMPEL RADOMIR / COMPEL RADOMIR	
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	COMPEL RADOMIR / COMPEL RADOMIR		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	COMPEL RADOMIR / COMPEL RADOMI	R	
科目分類/Course Category		 ール科目,大学院科目[構造],自由	選択科目/Elective Courses
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	・, -, -, -, - 学部問い合わせのこと	11732/17/EX / COULCE OF J / C	DCI / COMMISS
対象学生(クラス等) /Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	cmplrad[at]nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Office	多文化社会学部11階		
担当教員TEL/Tel	2944		
担当教員オフィスアワー/Office hours		 合もありますので、予めe-メールで	アポを取って下さい)
担当教員オフィスアラー/OTTICE Hours		ロでなうとともに、論理的思考とそ	
授業の概要及び位置づけ/Course overview	、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。		
授業到達目標/Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための 基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 主体性 / Autonomy 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B.多角的に考えるために他者と関わる活動 br>/ Activities involving others to think from various perspectives C.技能修得のために実践する活動 b.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 c.対はivities to practice for acquiring skills D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 b.に上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 b.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 c.上記以外の対生の思考の活性化を促す授業手法 br>/ Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F.教員からの講義のみで構成される b. Teaching of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議	論・作業への参加度合い(30%)、学	期末レポート(25%)
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法)/Course	  詳細は授業計画詳細を参照		
contents of each lesson		**************************************	CLD4/21 4 / - 1
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。 (2h) 【復習】 講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)		
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文		
教科書・教材・参考書/Materials	参考書は次の通り。 戸田山和久『新版 論文の教室』N ほかには例えば:	い。授業で適宜に資料を配付する。 HK出版、2022年。 論文トレーニング』岩波書店、2008	年。

受講要件(履修条件)/Prerequisites	
文曲女什(报序亦什)/i lelequisites	┃
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先
	(TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948
Market 12	(E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか	N.
(Y/N)/Instructor(s) with practical experience	IN .
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教	
育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使	
用)/Name / Details of practical experience /	
Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに:オリエンテーション(対面) 授業: 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する
第1四	12章 : 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
	問いを立てる(対面)
第2回	授業: 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る
	自習: 卒業までの学びの設計図を描く 時間外:個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
	資料収集の基礎(対面)
第3回	授業:附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する
	自習:2自習- の続き
	知のモラルとマナー(対面)  授業: オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問(オフィス
第4回	12末・ カランチラティ、右下惟、引用、小正日為、电子が、致兵が元至、20前向(カフィス   アワー)
	自習: 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信する
	問題発見からリサーチクエスチョンへ授業 (対面 ):
第5回	個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る
	自習: テーマの絞り込みと 「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備   本・論文を探す(対面)
第6回	本 : 闘スを探り ( 対画 )  授業: 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る
	自習: 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(対面)
第7回	授業: リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本
3.1.4	的考えを知る
	自習: 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り(対面)  授業: 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る
( <del>)</del>	12案: 文献表についてのティスカックョン、 サーティングといれテードにりの基本を知る  自習: 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
	調査から研究へ(対面)
<b>等</b> 0回	授業: 問いと先行研究(文献)との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程
第9回	を知る
	自習: 8自習- の続き、 リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる
	グループ調査の設計(対面)
第10回	授業(対面):
	│ 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする │自習: 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
	文献調査とフィールド調査(対面)
9440	授業: 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認 (「リサーチ入門
第11回	」との連接)
	自習: 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う

	プレゼンテーション入門(1) (対面)
第12回	授業: 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る
	自習: グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
	プレゼンテーション入門(2) (対面)
第13回	授業:文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする
	自習:調査データのブラッシュアップをする
	研究発表会(対面)
₩44 <b>©</b>	授業: 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッショ
第14回	ンに参加する
	自習:グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
	レポート・論文執筆の基礎(2)(対面)
***** C	授業: プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認す
第15回	<u> వ</u>
	自習: レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
77.40 D	まとめ(対面)
第16回	レポート作成

学期 / Semester	2024年度 / Academic Year 前期	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 5
于知 / Jelliestel	/First Semester	唯日 · 1文時 / Day · Ferrou	X7 Tue 3
開講期間 / Course duration	2024/04/08 ~ 2024/09/29		
必修選択/Required / Elective	必修,選択,自由/required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学)/Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード/Time schedule code	20240581003005	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名/Course title	初年次セミナー(多文化) / Fi	rst-Year Seminar	
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	王 維/Wang Wei		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	王 維/Wang Wei	王 維/Wang Wei	
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	王 維/Wang Wei		
科目分類 / Course Category			選択科目/Flective Courses
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	1, 2, 3, 4    学部問い合わせのこと	mission of the second	125 H 1 40 m 11 m 1
対象学生(クラス等) /Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	wangw@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Office	総合教育研究棟10階		
担当教員TEL/Tel	1095-819-2913		
担当教員オフィスアワー/Office hours	1093-019-2913   随時。事前メールでの連絡が必要。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。		
授業到達目標/Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	派用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 主体性 / Autonomy 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B.多角的に考えるために他者と関わる活動 various perspectives C.技能修得のために実践する活動 D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 various perspectives to practice for acquiring skills D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 various perspectives E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 students' thinking other than the above F.教員からの講義のみで構成される br/ It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議	論・作業への参加度合い(30%)、学	期末レポート(25%)
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。 (2h) 【復習】 講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)		
キーワード/Keywords		修、資料収集、調査、グループワー	
教科書・教材・参考書/Materials	松本茂/河野哲也(2012)『大学生 学出版部	Eのための「読む・書く・プレゼン・	ディベート」の方法』玉川大
受講要件(履修条件)/Prerequisites			

アクセシビリティ/Accessibility (for students	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会 的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートに ついては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下
with disabilities)	さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL)095-819-2006(FAX)095-819-2948
	(E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開
学生へのメッセージ/Message for students	拓する意欲を持つことが何より大切です。
	「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-  result/student/
(Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教	
育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使	
用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
	Min Mik 上 内 (
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents
	はじめに:オリエンテーション(対面)
第1回	授業: 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する
	自習: 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる 問いを立てる(対面)
***	
第2回	自習: 卒業までの学びの設計図を描く 時間外:個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、そ
	れをメモする
	資料収集の基礎(対面)
第3回	授業: 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する
	自習:2自習- の続き 知のモラルとマナー (対面)
第4回	アワー)
	自習: 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信す
	る  問題発見からリサーチクエスチョンへ授業(対面):
第5回	個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る
	自習: テーマの絞り込みと 「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
	本・論文を探す(対面)
第6回	授業: 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る
	自習: 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(対面)  授業: リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本
第7回	的考えを知る
	自習: 実際に文献表を作ってみる
	リーディングと研究ノート作り(対面)
第8回	授業: 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る
	自習: 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解  調査から研究へ(対面)
	週間から前れてくが周り  授業: 問いと先行研究(文献)との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程
第9回	を知る
	自習: 8自習- の続き、 リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる
	グループ調査の設計(対面)
第10回	授業:   0白羽 に其づいて会員の前で担安を行う ゲループ調本のニーフを決め 班公けまる
	│ 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする │自習: 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
	文献調査とフィールド調査(対面)
第14回	授業: 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認 (「リサーチ入門
第11回	」との連接)
	自習: 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う

	プレゼンテーション入門(1) (対面)
第12回	授業: 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る
	自習: グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
	プレゼンテーション入門(2) (対面)
第13回	授業:文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする
	自習:調査データのブラッシュアップをする
	研究発表会(対面)
₩44 <b>©</b>	授業: 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッショ
第14回	ンに参加する
	自習:グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
	レポート・論文執筆の基礎(2)(対面)
***** C	授業: プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認す
第15回	<u> వ</u>
	自習: レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
<b>940</b>	まとめ(対面)
第16回	レポート作成

学期 / Semester	2024年度 / Academic Year 前期	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 5
	/First Semester		)
開講期間 / Course duration	2024/04/08 ~ 2024/09/29		
必修選択/Required / Elective	必修,選択,自由/required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学)/Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード/Time schedule code	20240581003006	科目番号/Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	初年次セミナー(多文化) / Fi	rst-Year Seminar	
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	河村 有教		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	河村 有教		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Instructor(s)	河村 有教		
科目分類/Course Category	教養ゼミナール科目,教養ゼミナ	ール科目,大学院科目[構造],自由	選択科目/Elective Courses
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態/Course style	演習/Seminar
教室/Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) /Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	kawamura nagasaki-u.ac.jp(	@)	
担当教員研究室/Office	総合研究棟(多文化社会学研究科	・多文化社会学部 ) 11階	
担当教員TEL/Tel	095-819-2953		
担当教員オフィスアワー/Office hours	メールにてアポイントを取ってく	メールにてアポイントを取ってください。	
授業の概要及び位置づけ/Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。		
授業到達目標/Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための 基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	Diversity 土体性/Autonomy		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B.多角的に考えるために他者と関わる活動 br>/ Activities involving others to think from various perspectives C.技能修得のために実践する活動 br>/ Activities to practice for acquiring skills D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 br>/ Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 br>/ Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F.教員からの講義のみで構成される br>/ It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議	論・作業への参加度合い(30%)、学	期末レポート(25%)
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照 		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	(2h) 【復習】 講義内容について、テキ ネットを用いて調べ、それでもわ	講義で説明されるテキストの該当箇 -ストや参考書を読んで復習し、理解 からない点は友人や教員に質問し、	¥できない点は図書やインター 解決すること。(2h)
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履 ポート・論文	修、資料収集、調査、グループワー	ク、プレゼンテーション、レ

教科書・教材・参考書/Materials	【教科書】下記の と を準備してください。     T・W・クルーシアス = C・E・チャンネル(杉野俊子他訳)『大学で学ぶ議論の作法』(慶應義塾 大学出版会,2004年)     漢字文献情報処理研究会編『大学で学ぼう一知のスキルアップ15』(好文出版,2013年) 【参考書】     ・戸田山 和久(2012)『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』(NHKブックス)     ・石黒 圭(2012) 『論文・レポートの基本』(日本実業出版社)     ・山内 志朗(2001)『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社)     参考書は多文化社会学において推奨されている書籍です。図書館等で各自借りてみてください。     選択した教科書に含まれない要素については担当教員の方で,プリント配布等によって補う。
受講要件(履修条件)/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会 的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートに ついては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下 さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL)095-819-2006(FAX)095-819-2948 (E-MAIL)support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか	N N
(Y/N)/Instructor(s) with practical experience	IN .
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教	
育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使	
用)/Name / Details of practical experience /	
Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
15未可凹叶神 / Course Scriedure	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに:オリエンテーション(対面) 授業: 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する 自習: 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる(対面) 授業: 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習: 卒業までの学びの設計図を描く 時間外:個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎(対面) 授業:附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習:2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー(対面) 授業: オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問(オフィスアワー) 自習: 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信する
第5回	問題発見からリサーチクエスチョンへ授業(対面): 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習: アーマの絞り込みと 「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す(対面) 授業: 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習: 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(対面) 授業: リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本
	的考えを知る 自習: 実際に文献表を作ってみる

	調査から研究へ(対面)
第9回	授業: 問いと先行研究(文献)との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程
<del>70</del>	を知る
	自習: 8自習- の続き、 リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる
	グループ調査の設計(対面)
第10回	授業:
第10回	9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする
	自習: 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
	文献調査とフィールド調査 (対面)
第11回	授業: 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認(「リサーチ入門
第11四 -	」との連接)
	自習: 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う
	プレゼンテーション入門(1) (対面)
第12回	授業: 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る
	自習: グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
	プレゼンテーション入門(2) (対面)
第13回	授業:文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする
	自習:調査データのブラッシュアップをする
	研究発表会 (対面 )
第14回	授業: 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッショ
77 17 12	ンに参加する
	自習:グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
	レポート・論文執筆の基礎(2) (対面)
第15回	授業: プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認す
	ै व
	自習: レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ (対面)
N 10 E	レポート作成

2440 (0	2024年度 / Academic Year 前期	™ □ tàut (Day Day'ad	de ATivo E
学期/Semester 	/First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火/Tue 5
開講期間/Course duration	2024/04/08 ~ 2024/09/29		
必修選択 / Required / Elective	必修,選択,自由/required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学)/Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード/Time schedule code	20240581003007	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名/Course title	初年次セミナー(多文化) / Fi	rst-Year Seminar	
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	TOET RUDY		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	TOET RUDY		
授業担当教員名 (オムニバス科目等 ) / Instructor(s)	TOET RUDY		
科目分類 / Course Category			
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室/Class room	学部問い合わせのこと	,	
対象学生(クラス等) /Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	rudytoet nagasaki-u.ac.jp(メ	ールを送信する際は を@に変更して	 [送信してください)
担当教員研究室/Office	総合教育研究棟5階ライティングも		<u> </u>
担当教員オフィスアワー/Office hours	授業の直後またはメールにて質問を受け付ける。メールによりアポイントメントを取ることもできる。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。		
授業到達目標/Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 主体性 / Autonomy 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
	A.授業内容の理解度を確認した	り自分で考えさせたりする活動 <br< td=""><td>&gt;/ Activities to check the</td></br<>	>/ Activities to check the
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	B.多角的に考えるために他者と various perspectives C.技能修得のために実践する活 D.問題解決のために知識を総合 utilize knowledge to solve prol E.上記以外の学生の思考の活性 students' thinking other than	化を促す授業手法 / Teaching r	for acquiring skills that comprehensively methods to stimulate
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議	論・作業への参加度合い(30%)、学	期末レポート(25%)
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	(2h) 【復習】 講義内容について、テキ	講義で説明されるテキストの該当箇 テストや参考書を読んで復習し、理解 からない点は友人や教員に質問し、	fできない点は図書やインタ <b>ー</b>
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文		
教科書・教材・参考書/Materials	教科書は指定しない。授業で適宜	に資料を配布する。	
受講要件(履修条件)/Prerequisites			

	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会
アクセシビリティ/Accessibility (for students	的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートに
	ついては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下     
	さい。  アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先
	(TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948
	(E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	授業は対面形式で実施します。
	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開
学生へのメッセージ/Message for students	拓する意欲を持つことが何より大切です。
子主への入りセーシ/Message Tor Students	「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-
	result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか	N
(Y/N)/Instructor(s) with practical experience 実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教	
育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使	
用)/Name / Details of practical experience /	
Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容/Contents
	はじめに:オリエンテーション(対面)
第1回	はじめに・オリエンナーフョン(対画)  授業: 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する
3.10	自習: 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
	問いを立てる(対面)
第2回	授業: 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る
(차건의 	自習: 卒業までの学びの設計図を描く 時間外:個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、そ
	れをメモする
<u>شم</u> ا	資料収集の基礎(対面)
第3回	授業:附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習:2自習- の続き
	知のモラルとマナー(対面)
	授業: オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問(オフィス
第4回	アワー)
	自習: 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信す
	3
<b>Ч</b> г. П	問題発見からリサーチクエスチョンへ授業(対面):
第5回	個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る  自習: テーマの絞り込みと 「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
	本・論文を探す(対面)
第6回	授業: 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る
	自習: 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(対面)
第7回	授業: リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本
	的考えを知る   「中窓に立献書を作ってユス
	自習: 実際に文献表を作ってみる    リーディングと研究ノート作り(対面)
第8回	リーティングと研えノート1Fリ(xim)  授業: 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る
	自習: 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
	調査から研究へ(対面)
第9回	授業: 問いと先行研究(文献)との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程
NO 12	を知る
	自習: 8自習- の続き、 リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる
	グループ調査の設計(対面) 授業:
第10回	投業:   9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする
	9日目・ に塗りいて主負の前で旋桨を打り、 ブルーラ調査のケーマを次め、ガガガッる  自習: 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
	文献調査とフィールド調査(対面)
第11回	授業: 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認 (「リサーチ入門
第11回	」との連接)
	自習: 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う

	プレゼンテーション入門(1) (対面)
第12回	授業: 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る
	自習: グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
	プレゼンテーション入門(2) (対面)
第13回	授業:文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする
	自習:調査データのブラッシュアップをする
	研究発表会(対面)
₩44 <b>©</b>	授業: 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッショ
第14回	ンに参加する
	自習:グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
	レポート・論文執筆の基礎(2)(対面)
***** C	授業: プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認す
第15回	<u> వ</u>
	自習: レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
<b>940</b>	まとめ(対面)
第16回	レポート作成

学期 / Semester	2024年度/Academic Year 前期 /First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火/Tue 5
開講期間 / Course duration	2024/04/08 ~ 2024/09/29		
必修選択/Required / Elective	必修,選択,自由/required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学)/Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード/Time schedule code	20240581003008	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
		rst-Year Seminar	
編集担当教員 / Instructor in charge of the	GUELBEYAZ ABDURRAHMAN		
course syllabus	GUELDETAZ ADDUKKANWAN		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	GUELBEYAZ ABDURRAHMAN		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	GUELBEYAZ ABDURRAHMAN		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目、教養ゼミナ	 ール科目,大学院科目[構造],自由	選択科目 / Elective Courses
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと	,	
対象学生(クラス等) /Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
	a.guelbeyaz nagasaki-u.ac.jp(		えてください。)
担当教員Eメールアドレス/E-mail address			, , ,
担当教員研究室/Office	多文化社会学部2号館(総合教育研	开究棟)12F	
担当教員TEL/Tel	095-819-2905		
担当教員オフィスアワー/Office hours	事前にメールで連絡し、アポイン	トメントをとること。	
授業の概要及び位置づけ/Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型と関係して、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果た		
授業到達目標/Course goals	す。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。 大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための 基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	辺田的能力 / Generic Competence 倫理舞 / Ethics 名様性の理解 / Understanding		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B.多角的に考えるために他者と関わる活動 br>/ Activities involving others to think from various perspectives C.技能修得のために実践する活動 C.財態修得のために知識を総合的に活用する活動 b.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 c.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 b.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 b. Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F.教員からの講義のみで構成される b. Teaching of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議	論・作業への参加度合い(30%)、学	期末レポート(25%)
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照		
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。 (2h) 【復習】 講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)		
キーワード/Keywords		修、資料収集、調査、グループワー	
教科書・教材・参考書/Materials	Bailey, Stephen. (2021). Acader		_

受講要件(履修条件)/Prerequisites	
文确安什(履修宗什)/Prerequisites	   長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会
アクセシビリティ/Accessibility (for students	的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートに ついては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下
with disabilities)	され。
	アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL)095-819-2006(FAX)095-819-2948
	(E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	(1 mill) support tom magazant and sp
Im 37 Nomer No	┃ ┃「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開 ┃
	拓する意欲を持つことが何より大切です。
学生へのメッセージ/Message for students	「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-
	result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか	N
(Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N .
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教	
育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使	
用)/Name / Details of practical experience /	
Contents of course 授業計画詳細 / Course Schedule	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents
	はじめに:オリエンテーション(対面)
第1回	授業: 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する
	自習: 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる 問いを立てる(対面)
	団にを立てる(対画)  授業: 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る
第2回	自習: 卒業までの学びの設計図を描く 時間外:個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、そ
	れをメモする
	資料収集の基礎 (対面)
第3回	授業:附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する
	自習:2自習- の続き
	知のモラルとマナー(対面)
	授業: オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問(オフィス ーー・、
第4回	アワー )  自習: 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信す
	日音: 日ガの疑问点をグループグーグのデーマにするための・アヒール文」を書き教員に送信す
	で  問題発見からリサーチクエスチョンへ授業(対面):
第5回	個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る
	自習: テーマの絞り込みと 「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
	本・論文を探す(対面)
第6回	授業: 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る
	自習: 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(対面)
第7回	授業: リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本 的考えを知る
	自習: 実際に文献表を作ってみる
	リーディングと研究ノート作り(対面)
第8回	授業: 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る
	自習: 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
	調査から研究へ(対面)
第9回	授業: 問いと先行研究(文献)との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程
	を知る
	自習: 8自習- の続き、 リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる
	グループ調査の設計(対面)
第10回	授業: 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする
	9日首 - に基づいて主員の前で旋系を行う、 グループ調直のデーマを送め、班ガリする    自習: 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
	文献調査とフィールド調査(対面)
27.44	大阪
第11回	」との連接)
	自習: 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う

	プレゼンテーション入門(1) (対面)
第12回	授業: 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る
	自習: グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
	プレゼンテーション入門(2) (対面)
第13回	授業:文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする
	自習:調査データのブラッシュアップをする
	研究発表会(対面)
₩44 <b>©</b>	授業: 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッショ
第14回	ンに参加する
	自習:グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
	レポート・論文執筆の基礎(2)(対面)
***** C	授業: プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認す
第15回	<u> వ</u>
	自習: レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
<b>940</b>	まとめ(対面)
第16回	レポート作成

学期 / Semester	2024年度 / Academic Year 前期 /First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火/Tue 5
開講期間 / Course duration	2024/04/08 ~ 2024/09/29		
必修選択/Required / Elective	必修,選択,自由/required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学)/Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード/Time schedule code	20240581003009	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
	初年次セミナー(多文化) / Fi	rst-Year Seminar	
編集担当教員 / Instructor in charge of the			
course syllabus	李 頌雅 / LEE SONG YA		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	李 頌雅 / LEE SONG YA		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	李 頌雅 / LEE SONG YA		
科目分類 / Course Category	┃ 数春ゼミナール科目、数春ゼミナ	 ール科目,大学院科目[構造],自由	選択科目 / Flective Courses
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	1, 2, 0, 4    学部問い合わせのこと	H942/1/M/ COULDE Style	/A F Commun
対象学生(クラス等) /Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	sylee@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Office	総合教育研究棟11階 李研究室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2918	u	
担当教員オフィスアワー/Office hours	·	ルでアポイントメントをとってくだ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
授業の概要及び位置づけ/Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。		
授業到達目標/Course goals		のものとするとともに、多文化社会 バリング100番台の学びの成果を生 <i></i>	
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course ( pick 1 to 3 )	派用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 主体性 / Autonomy 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B.多角的に考えるために他者と関わる活動 various perspectives C.技能修得のために実践する活動 C.技能修得のために実践する活動 D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 br>/ Activities to practice for acquiring skills D.問題解決のために知識を総合的に活用する活動 challength of the comprehensively utilize knowledge to solve problems E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 br>/ Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above F.教員からの講義のみで構成される br>/ It consists only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議	論・作業への参加度合い(30%)、学	期末レポート(25%)
各回の授業内容・授業方法 (学習指導方法)/Course	  詳細は授業計画詳細を参照		
contents of each lesson		**************************************	CLD4/21 4 / - 1
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	(2h) 【復習】 講義内容について、テキネットを用いて調べ、それでもわ	講義で説明されるテキストの該当箇 Fストや参考書を読んで復習し、理角 からない点は友人や教員に質問し、	¥できない点は図書やインター 解決すること。(2h)
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レ ポート・論文		
教科書・教材・参考書/Materials	2.井下千以子(2019)『思考を鍛 3.高崎みどり(2010)『大学生の り方』秀和システム	布します 5んと書ける!論文・レポートの基本 える レポート・論文作成法 第3版』 ための「論文」執筆の手引 : 卒論・ ザイン:テーマの発見から研究の構	慶應義塾大学出版会 ・レポート・演習発表の乗り切

受講要件(履修条件)/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会 的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートに ついては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下
	さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先
	アンスト/仏場(厚かい子主文抜至)理論元   (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948
	(E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
	授業は対面形式で実施します。最初の回に授業計画を説明しますが、状況によって変更する場合も
備考/Remarks	あります。その場合は別途メールなどで連絡します。
	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。
学生へのメッセージ/Message for students	  「長大生のためのラーニングティップス」
	https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教	
育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使	
用)/Name / Details of practical experience /	
Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents
	はじめに:オリエンテーション(対面)
第1回	授業: 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する
	自習: 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
	問いを立てる(対面) 授業: 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る
第2回	
	れをメモする
	資料収集の基礎 (対面)
第3回	授業:附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する
	自習: 2自習- の続き
	知のモラルとマナー(対面) 授業: オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問(オフィス
第4回	DC米・ オップテッティ、有IFME、JIM、小皿17点、电 J アール、教員M 九里への前向(オフィス    アワー)
35 · E	^ ~ ~ /  自習: 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信す
	<b>న</b>
	問題発見からリサーチクエスチョンへ(対面)
第5回	授業: 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る
	自習: テーマの絞り込みと 「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備 本・論文を探す(対面)
第6回	本・論又を採り(刈囬)  授業: 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る
3300	自習: 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(対面)
第7回	授業: リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本
	的考えを知る
	自習: 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り(対面)  授業: 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る
	投業: 文献表にづいてのディスカッション、 リーディングと研究ノード作りの基本を知る  自習: 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
第9回	自自・
	授業: 問いと先行研究(文献)との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程
	を知る
	自習: 8自習- の続き、 リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる
	グループ調査の設計(対面)
第10回	授業:
	9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習: 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
	日日・ タエーニーンン/パ ノノ /で煙ひし、胴耳川凹首で下減がる

	文献調査とフィールド調査(対面)
第11回	大阪大学   大大   1921 (スロッ)
	」との連接)
	自習: 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う
第12回	プレゼンテーション入門(1)(対面)
	授業: 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る
	自習: グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2) (対面)
	授業:文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする
	自習:調査データのブラッシュアップをする
	研究発表会(対面)
第14回	授業: 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッショ
第14回	ンに参加する
	自習:グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2) (対面)
	授業: プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認す
	<b>১</b>
	自習: レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ (対面)
	レポート作成

学期 / Semester	2024年度/Academic Year 前期 /First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火/Tue 5
開講期間 / Course duration	2024/04/08 ~ 2024/09/29		
必修選択 / Required / Elective	必修,選択,自由 / required, elective,optional	単位数(一般/編入/留学)/Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/1.0/1.0, 2.0
時間割コード/Time schedule code	20240581003010	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード/Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名/Course title	初年次セミナー(多文化)/First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	森元斎		
授業担当教員名(科目責任者) /Instructor in charge of the course	森 元斎		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	森 元斎		
科目分類/Course Category	教養ゼミナール科目,教養ゼミナ	ール科目,大学院科目[構造],自由	選択科目/Elective Courses
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態/Course style	演習/Seminar
教室/Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) /Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	motonaomori@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Office	総合研究棟12F		
担当教員TEL/Tel	095-819-2920		
担当教員オフィスアワー/Office hours	メールにて連絡すること		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。		
授業到達目標/Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	汎用的能力 / Generic Competence 倫理観 / Ethics 多様性の理解 / Understanding Diversity 主体性 / Autonomy 協働性 / Cooperativeness 考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas 国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	A.授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動 degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over B.多角的に考えるために他者と関わる活動 various perspectives C.技能修得のために実践する活動 C.技能修得のために実践する活動 C.財態を得のために知識を総合的に活用する活動 doncinum various perspectives E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 をはvities that comprehensively utilize knowledge to solve problems E.上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法 Students' thinking other than the above F.教員からの講義のみで構成される F.教員からの講義のみで構成される Students only of lectures from teachers		
成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議	論・作業への参加度合い(30%)、学	期末レポート(25%)
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course	  詳細は授業計画詳細を参照		
s and seach lesson and seach lesson 事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】前回の講義を受け、次の (2h) 【復習】 講義内容について、テキ	講義で説明されるテキストの該当箇 ニストや参考書を読んで復習し、理解 からない点は友人や教員に質問し、1	<b>ぽできない点は図書やインター</b>
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レ ポート・論文		
教科書・教材・参考書/Materials	適宜資料配布します		
受講要件(履修条件)/Prerequisites	特になし		

アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先(TEL)095-819-2006(FAX)095-819-2948(E-MAIL)support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか	
(Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N .
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course 授業計画詳細/Course Schedule	
1XXII EITMI / Course concart	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに:オリエンテーション(対面) 授業: 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する 自習: 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる(対面) 授業: 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習: 卒業までの学びの設計図を描く 時間外:個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎(対面) 授業:附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習:2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー(対面) 授業: オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、電子メール、教員研究室への訪問(オフィスアワー) 自習: 自分の疑問点をグループワークのテーマにするための「アピール文」を書き教員に送信する
第5回	問題発見からリサーチクエスチョンへ授業(対面): 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習: テーマの絞り込みと 「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す(対面) 授業: 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習: 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎(対面) 授業: リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本 的考えを知る 自習: 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り(対面) 授業: 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習: 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
第9回	調査から研究へ(対面) 授業: 問いと先行研究(文献)との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程 を知る 自習: 8自習- の続き、 リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめる
第10回	グループ調査の設計(対面) 授業: 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習: 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
第11回	文献調査とフィールド調査(対面) 授業: 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認(「リサーチ入門」との連接) 自習: 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う

	プレゼンテーション入門(1) (対面)
第12回	授業: 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る
	自習: グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2) (対面)
	授業:文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする
	自習:調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会(対面)
	授業: 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッショ
	ンに参加する
	自習:グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2)(対面)
	授業: プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認す
	<u> వ</u>
	自習: レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ(対面)
	レポート作成